

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

新年を迎えた時、当たり前のように「あけましておめでとうございませう」とお互い挨拶する。無事に新しい年を迎えられた、「良かったね」の気持ちが当たり前の事と思う環境に感謝する言葉だ。世界の多くの地域では、明日まで生きられるか、ろくに食べ物がなく栄養失調の生活を余儀なくしている数え切れない人々。自分の事だけでなく、今を見つめる大切さを確かめる時期でもある。

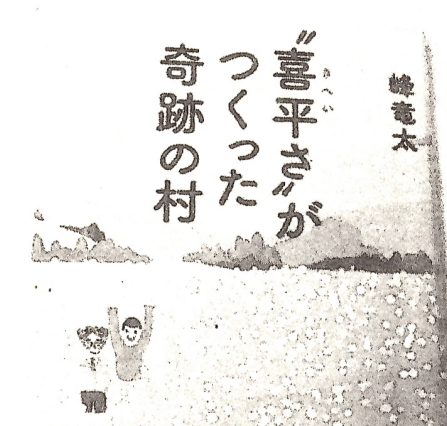
ことしも、多くの情報を地域に伝えたいと改めて心に刻む。12月に開催された多くの自治体議会の情報内容が気になる。国が推し進める成長戦略は、国等が地方自治体に財源を与え、地域戦略を推し進めている。一概に負

の部分だけでなく、地域にとっても有難い戦略だが、多くの事業は、地域の負担を求めているため地方債(借入金)による財政運用に、厳しい視点が求められている。知人から昨年11月に

## 自分達の地域を「なんとかしたい」と思う行動の大切さを知る

(株)幻冬舎から発行された著者「峰竜太」さんの「喜平(きへい)さ」がつくった奇跡の村」の購読を薦められる。峰竜太さんは、下伊那郡下条村の出身で、俳優やタレントや司会者としても著名な人物。長野県観光大使第一号に就任するなど地域振興に尽力している。著書では、ふるさと下条村の出来事を紹介。カリスマ村長としても有名な伊藤喜平さんの取組みと、具体的な成果を書き綴った内容。容は、郷土愛一杯だ。財政の健全度を表す実質公債費比率は16年度、全国1741市区町村で1位。伊藤村長が公約に掲げた「子どもが響く村づく」を「小さな村でも

できる」と紹介。多くの記述が心に残る。選挙期間中の「村長になつたら、そんなやり方は許さない」、「もたもたした人ほど、残業手当がついて給料が高い。テキパキ働く人ほど安い。どこに異動にをしなさい」の意識から、「住民に必要な仕事からとりかかろう」、「これは本当に住民にとっていいのだから」といった意識変化を芽生えさせた手法に驚きを感じる。「ムダは徹底的に省け、だけでも、将来に向けて今やっ



この本には、これまでの考え方では無く、違う視点から物事を見つめる知恵が詰まっている。

おかなきゃいけない事は徹底してやれ、から生まれた豊富な自主財源が支える下条村の今後に関心を抱かせた内容だった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)